



International Longevity Center

THE OBJECTIVES

設立目的

国際長寿センター (International Longevity Center: ILC) は少子高齢社会の到来に伴って発生する諸問題を、国際的・学際的な切り口で調査研究し、広く広報・啓発することを目的とし、国連やWHOとも連携を取りながら広範な活動を目指している。

アメリカ、日本、フランス、イギリス、ドミニカ共和国、インド、アルゼンチン、南アフリカの世界8カ国に設立された各センターは、人口高齢化に伴って世界の国々が抱える多くの問題に対して、共通の認識を持ち、互いの英知を出し合おうと、共同研究や事業を進めつつ、自国における独自の活動にも精力的に取り組んでいる。(詳細は以下 The Organization 参照)

日本センター (ILC-Japan) は、ILC Alliance 構想と Productive Aging を提唱したロバート・バトラー博士に賛同した多くの民間企業から拠出金を得て、1990年11月に設立された。その後一貫して少子高齢社会における政策提言や問題提起を行い、調査・分析結果を広く情報提供・広報するなど、人口高齢化にかかわるテーマに取り組み続けている。

2000年10月からは厚生省(当時)の補助金を受け、介護に当たる家族の悩みや相談をフリーダイヤルで受ける「介護支え合い相談・研究事業」を行ってきた。開始以来、相談件数は23,200件(2006年5月現在)を超えている。

また、海外に日本の制度や情報を紹介することと同様に、ILCのさまざまなネットワークを通じて得た海外の情報を日本国内に発信することも、重要な役割となっている。



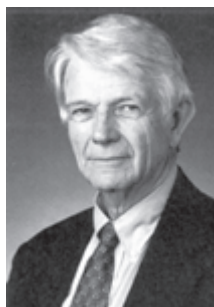
THE ORGANIZATION

組織構成

MISSION

- 1
ヘルシー・エイジング、プロダクティブ・エイジング実現への社会的認識を促進し、高齢者自身が家族や社会に果たす役割や貢献に光を当てる
- 2
人口高齢化が社会全体に与えるさまざまな影響に関する研究に、アライアンスメンバーあるいはその他の個人・コミュニティ・団体・行政機関と連携しながら取り組む
- 3
長寿高齢社会問題に関する知識や専門的見解・アイデアの源となる組織として、あらゆる場所での政策提言や啓蒙・啓発活動を行う

ILC-USA



設立: 1990年

理事長: Robert N. Butler, M.D.

主なプロジェクト

- アーカンソー高齢化プロジェクト「アーカンソーは高齢期を過ごすのに良い場所か？」
- 睡眠と健康的な加齢に関するプロジェクト
- 第7回エイジブーム・アカデミー(ジャーナリスト対象の長寿革命理解促進セミナー)

Robert N. Butler, M.D.

マウントサイナイ・メディカルセンター老年医学部教授。1975年国立老化研究所(NIA)初代所長。1982年アメリカで最初の老年医学部をマウントサイナイ・メディカルセンターに創設。1995年まで学部長を務める。1976年“Why Survive?—Being Old in America”でピューリッツァー賞(ノンフィクション部門)受賞。

ILC-Japan



設立: 1990年

理事長: 森岡 茂夫

主なプロジェクト

- 介護支え合い相談・研究事業(7年目)
- 認知症を知り地域をつくるキャンペーン(2年目)
- 高齢者の日常生活に関する継続的調査(3年目)
- 情報プロジェクト

森岡 茂夫

山之内製薬(現アステラス製薬)株式会社元会長。日本製薬工業協会会長、日本製薬団体連合会会長、医療用医薬品製造業公正取引協議会会長、国際製薬団体連合会(IFPMA)副会長などを歴任。1995年勲二等旭日重光章を受章。

ILC-France



- 設立：1996年
理事長：Françoise Forette, M.D.
主なプロジェクト
- 健康活動寿命の指標
 - 加齢と雇用
 - 美と長寿
 - 万歩計活用プロジェクト

Françoise Forette, M.D.

パリ市議会議員。パリBroca病院理事長、パリ第5大学内科・老年医学科教授、フランス赤十字理事、フランス国立老年医学・老年学財団理事長、フランスアルツハイマー病学会会長など。『エイジング臨床・実験研究』編集委員を務めるほか、230に及ぶ科学関連著書がある。

ILC-UK



- 設立：1997年
理事長：Baroness Sally Greengross
主なプロジェクト
- 未来創世プロジェクト
(地方自治体の高齢者住宅プラン担当者支援)
 - EU25カ国の「高齢化の状況」調査研究

Baroness Sally Greengross

英国上院議員(無所属)。エイジコンサーン副会長、Experience Corps会長、Help Age International理事、英国健康増進学会特別研究委員、英国芸術学会特別研究委員など。1993年大英勳章OBEを受章。

ILC-Dominican Republic



- 設立：1998年
理事長：Rosy Pereyra Ariza, M.D.
主なプロジェクト
- 高齢者に対する社会的認識の変革プロジェクト
(小学生向けとマスコミ向け)
 - 途上国における高齢者のエンパワーメント
 - 高齢者虐待の発現率・有病率に関する調査

Rosy Pereyra Ariza, M.D.

老年医学医。ドミニカ共和国保健社会支援省児童・高齢者州サービス前局長。NGO「Grandparents協会」会長。2002年国連「高齢化に関する世界会議」(マドリッド)国連アクションプラン改訂委員会委員、2003年「国際アルツハイマー病協会第19回国際会議」運営委員などを務める。

ILC-India



- 設立：2004年
理事長：S.D. Gokhale
主なプロジェクト
- 高齢ボランティアによる癌患者サポートプロジェクト
 - 「Help Line」による高齢者やその家族の相談事業
 - 高齢者虐待防止プロジェクト
 - アーユルヴェーダ、ユナニ、東洋医学等の伝統医学に関するワークショップ

S.D. Gokhale

An Initiative of Community Aid & Sponsorship Program (CASP)理事長。International Federation on Aging (IFA) 元会長。Pune大学健康科学大学院老年学講師など、多くの大学で客員教授を務めるほか、国連、政府、大学委員会など諸団体の委員を務める。著書は30冊を超え、ガンジー賞など受賞多数。

ILC-South Africa



- 設立：2005年
理事長：Monica Ferreira
主なプロジェクト
- 高齢者の社会貢献活動支援調査 (ILC-USAと共同研究)
 - 南アフリカにおける認知症のコストと管理
 - アフリカにおける認知症高齢者のリスクと脆弱性の評価
 - ケープフラッツ郡区高齢者の健康、家族とコミュニティへの貢献

Monica Ferreira

Institute of Ageing in Africa (IAA) 理事長。ケープタウン大学保健科学部医学科教授。Human Science Research Councilエイジング研究センター前所長。

ILC-Argentina



- 設立：2005年
理事長：Lia Susana Daichman
主なプロジェクト
- 高齢者によるボランティアネットワーク推進事業
 - 施設管理者・デイケア・介護・施設介護のための研修コースの提供
 - 高齢者虐待防止と人権問題セミナー開催

Lia Susana Daichman

高齢者虐待防止国際ネットワーク (INPEA) 委員長。ブエノスアイレス Jewish Community アドバイザー、ベルグラノ大学心理学部老年心理学科助教授、ブエノスアイレス大学老年医学大学院スペシャリスト課程コーディネーター。

THE ACTIVITIES

ILC Allianceとしての活動

- 1991 ■ 高齢社会における企業の社会貢献活動についての調査・研究
- 1993 ■ 老人医療費の日米比較研究
 - ラウンドテーブル「長寿と社会」
第15回国際老年学会にて発表(ブダペスト)
- 1994 ■ 高齢社会を支える世代間の継承と責任における日米比較研究
- 1997 ■ 日米メディアプロジェクト
 - シンポジウム「QOLについて」
第16回国際老年学会にて発表(アデレード)
- 1999 ■ World Cities Project
(世界の都市で老いる——東京、ニューヨーク、パリ、ロンドン、4都市比較研究)
- 2000 ■ 高齢者の神話と現実プロジェクト
- 2001 ■ シンポジウム「文化的視点から見た各国の高齢化」
第17回国際老年学会にて発表(バンクーバー)
 - 高齢女性の経済状況研究
- 2002 ■ シンポジウム「長寿における国内および各国間の保健上の格差と不平等」
第2回国連高齢化に関するNGOフォーラムにて発表(マドリッド)
- 2003 ■ シンポジウム「プロダクティブ・エイジング」(ニューヨーク)
- 2004 ■ シンポジウム「誰が介護する? 介護の今——国際比較」
国際アルツハイマー病協会第20回国際会議・京都・2004にて発表(京都)
- 2005 ■ シンポジウム「健康長寿は富をもたらすか」
第18回国際老年学会にて発表(リオ・デ・ジャネイロ)



リオ・デ・ジャネイロで開催されたILCアライアンス2005年度合同委員会で顔を揃えた各国理事長

■ 研究事業 ■ シンポジウムなど

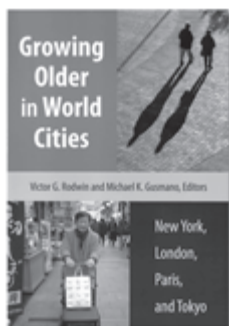
Allianceによる最新の研究

World Cities Project

世界の主要4都市(東京、ニューヨーク、パリ、ロンドン)における高齢化の実情と社会的課題を比較検討し解決策を探ることを目的とした調査研究。

1999年より5年間にわたって各都市の人口動態、公衆衛生、医療サービス、交通網などのインフラ整備等膨大な基礎データを収集・分析するとともに、各都市において高齢者個別聴き取り調査を行った。

2000年の東京会議、2001年のロンドン会議、2003年のパリ会議、2004年の東京会議を経て、2006年2月にアメリカ、ヴァンダービルト出版社から報告書を刊行。



Alliance for Health & the Future

2003年11月よりエデルマン・インターナショナルとILCアライアンス(アメリカ・フランス・イギリス)が長寿に関する共同研究を行っている。当面はヨーロッパを中心とした研究になるが、今後は国際的にさらに拡大していく方針。

このプロジェクトは、すべての人々が年齢にかかわらず豊かな生活と健康を、家庭、職場、コミュニティなどあらゆる場面で享受することを目的としている。

研究プログラムとしては、①健康で生産的な社会参画の指標構築に関する調査、②OECDとのパートナーシップによる年齢差別各国比較調査、③健康と長寿と富との関係に関する調査等が展開されている。

<http://www.healthandfuture.org/>